

愛兒のしつけ方

東京橋南紺屋町
實業之日本社
振替東京三二六番

最新刊

前東京高師教官 横濱市視學

加藤末吉先生著

▽定價一圓五十錢 ▽郵稅八錢
▽四六判總クロス ▽函入美本

我の子の躰け方叢書

—— 第一編 ——

▼世の中に親として愛兒の立身出世を願はないものではありません。されば何が楽しみと云つても子供を善良にしつける程愉快なことはありません。所が子供を完全にしつける事は實にむづかしいもので、丁度若い芽生を培ふやうに、極めて幼少の頃から細心の注意を拂つて仕込まねばなりません。それ故實際に適したしつけ方の書物が、如何なる家庭にも必要であります。

▼本書は著者が多年の實驗上の見解と最新の兒童心理學上の學說に基き、家庭教育の全般に亘つて親たる者の心得を述べ、子供の智情意の啓發法から、習慣、癖性、遊戯、禮儀、作法等のしつけ方に至るまで精しく懇説したものであります。世の親たる方々は家庭の幸福のために是非お読み下さい。

—— 斑 一 容 内 ——

しつけの尊重：習慣の力：親の實力：意志の發達：善惡の区分：衝動と習慣：癖性と思慮：遊戯について：作業について：愛情：感情：禮儀作法：言葉づかひ：國民としての教育：團體と閉：慰安の仕方：芝居講談等：興味の轉換：暗示の利用：趣味の生活：危險と困苦：指導者の反省：附録 訓話十二月

東京市麴町小學校長 土川五郎先生新著

大正幼年唱歌表情遊戯

著者の自序の一節に「葛原・小松・梁田三君によつて著されたる大正幼年唱歌は今や全國津々浦
 浦迄も用ひられ歌はれて居る。畏友葛原君はこれに表情を付する事を予に托さる。予律動的遊
 戯の研究をなすこと茲に九年、其の間歌謠の表情に對しても聊か卑見ある一人であつたのと、
 葛原君が兒童幼兒の爲に貢獻して居らるゝ事に對し常に敬意を持つて居つたので、自分の淺き
 經驗と薄き才學とを顧みる暇もなく直ちに快諾したのである。……云々」と即ち本書は兒童
 遊戯の研究家として實に斯道の權威たる著者が大正幼年唱歌第一集より第六集迄の歌詞の中、
 表情に最も適したるものを選び深き根據に鑑みて作つたものである。されば幼稚園・小學校等
 は必ず一本を備ふべきものと信ずる。

廣島高等師範學校訓導 山本壽先生新著

少年少女の無二の友

好評 尋常小學唱歌

- 一年用 二 一 お日様
- 目次 二 一 猿蟹合戦
- 三 一 螢狩り
- 四 一 舌切雀
- 五 一 菊取り
- 六 一 菊の花
- 七 一 木口小平
- 八 一 菊の花
- 九 一 お正月
- 十 一 飛行機

定價 金貳拾五錢
 郵稅 金貳錢

回上卷發賣 回新形優美 回定價金七拾五錢 回郵稅金六錢 回下卷近刊

發行所 東京市橋區南馬丁二丁目九番 振替口座 東京市橋區南馬丁二丁目九番 振替口座 東京市橋區南馬丁二丁目九番

明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可(毎月一回十五日發行)